

全国大会のあり方について

第32回全国大会おきなわ那覇大会

参加者数 5,029人

内訳：登録者数 4,724人（YEG会員4,634人 家族登録 90人）
来賓・招待 305人

①分科会登録者および参加人数について

分科会定員4,196人 対し分科会登録者 1,811人。

大会登録数の4,724に対し分科会登録者は半数以下、そして無料分科会（キャンセル料の発生しない分科会）への実際は、三分の一程度と非常に参加率が悪い。

上記の状況を見ると、全国大会が本年の日本YEGの活動の集大成となる会員の学びの場ではなく、単なる集いの場となっている状況が考えられます。時勢柄、志を同じくする者との交流に貴重なお金と時間を使うのであれば、「大会に参加する者が地域や会社の為になる何かを持ち帰る」という意識醸成が必要と感じられます。大会を開催する側としても、YEGだけの大会ではなく、その先を見据え、地域の発展に結びつく大会として、団体の垣根を超えた設えとすることも考えねばなりません。

②運営について

企画委員会の事業ボリュームは大きく、各地ブロック大会、全国会長研修会へ参画しますが、日本YEGが主催という感じではなく、式典のみの関わりという感じが否めません。全国大会開催に向け、集中して現地に数多く入り、大会開催のための工程確認やボリュームについての提案や管理、また日本YEGの開催する分科会の増加なども考える必要があります。その橋渡しとして『運営委員会』が必要となります。特に日本YEGの関わる部分については、前もってのリハーサルや打ち合わせを行うことで時間の超過や、予算についての調整もできるのではないかと考えます。また、本年は天候にも恵まれましたが、悪天候の際にはどのようなようになるのかを日本YEGと主管地によりシミュレーションをする必要もあると考えます。他に、翌年、翌々年の主管メンバーが、その大会に単なるPR等の参加ではなく、実際の運営業務に携わることで、各単会や県連として大会への意識を高めていくことができること、また運営側としても人員に余力をもった大会となるのではないかと考えます。